

れるという言い伝えが残りました。

🗿 Q 48 平安時代から室町時代中後期にかけて、豊浦郡や大津郡、小月地域を治めていた豪族がいました。何と言う豪族でしょうか。

- ①厚東氏 ②毛利氏 ③豊田氏 ④大内氏 ⑤吉川氏

答え ③豊田氏

解説 平安時代の初め頃、豊田輔平すけひらが現在の豊田町一の瀬に居を構え、子の輔行すけゆきが豊田大領たいりょうとなり豊浦郡や大津郡、小月地域を治めていました。大内氏、厚東氏と並んで山口県の3大豪族でした。平安時代の中頃、厚東氏が大内氏に滅ぼされると、豊田氏は大内氏に服属、その後、文明2年（1470）ごろ嫡流ちやくりゅうは滅び、庶流しよりゅうは他所で現在に続いています。

《 中 世 》

🗿 Q 49 源平最後の合戦、壇之浦の合戦で、源氏の総大将はだれだったでしょうか。

- ①源頼朝 ②梶原景季かげすえ ③源範頼のりより ④熊谷直実 ⑤源義経

答え ⑤源義経

解説 平家は一の谷、屋島と追われ、最後は平知盛ちきよむねの知行国とされる長門の国の彦島に本陣を構えます。源範頼・義経は、一の谷では有名な鶴越つるごえの奇襲作戦で勝利を得ます。義経は、屋島でも平家を破り、とうとう長門国の長府沖、満珠・干珠島あたりに船を集結させ、合戦に備えます。一方源範頼は、九州豊後国に渡り、背後から平家の動きを封じました。したがって壇之浦合戦の源氏方総大将は、源義経でした。

Q50 源平最後の戦い・壇之浦合戦で平家の総大将は平宗盛^{むねもり}でしたが、気の弱い宗盛^{むねもり}を補佐して平家の軍事的統率の役割を担っていたのはだれでしょうか。

- ①平知盛^{とももり} ②平維盛^{これもり} ③平経盛 ④平敦盛^{あつもり} ⑤平教盛^{のりもり}

答え ①平知盛

解説 平知盛（1152～1185）は、平清盛^{きよもり}の4子。兄・重盛^{しげもり}、父・清盛が死んでからは、三男の宗盛が平家の総帥となるが、知盛は平家随一の知将として気の弱い宗盛を補佐し、平氏の軍事的統率の役割を担いました。源平最後の合戦壇之浦の戦いでは、一門の最期を見届けて入水しました。

🌐 Q51 壇之浦の合戦前に、源氏方が集結した場所は、追津（奥津）と平家物語に書かれています。どのあたりでしょう。

- ①唐戸近く ②巖流島近く ③関門橋下付近
④満珠・干珠島近く ⑤門司・田ノ浦沖

答え ④満珠・干珠島近く

解説 「平家物語」では、「平家は長門国引島に著くと聞こえしかば、源氏も同じ国の内、追津に著くこそ不思議なれ」とあります。引島は彦島ですが、追津は長府沖の満珠・干珠島の周辺といわれています。

🌐 Q52 源平最後の合戦、壇之浦の合戦で、幼い天皇を抱いて海峡に入水された女性はなんという方でしょうか。

- ①建礼門院 ②二位尼 ③三位局 ④春日局 ⑤和宮

答え ②二位尼^{にいのあま}

解説 京都を追われた平家一門は、安徳帝を奉じて福原、屋島、長門の国へと追われていきます。源平最後の合戦、壇之浦の合戦では、安

徳帝をはじめ祖母の二位尼、母の建礼門院など船に乗って戦の場に行きました。平家の敗色は濃く、平知盛は全軍に覚悟を呼びかけ、安徳帝を抱いた二位尼は海に身を投じました。みもすそ川公園の「壇の浦古戦場址」の碑は昭和49年（1974）3月に、この公園の完成を記念して建てられたもので、裏面には「今ぞ知る御裳濯川の流れには波の下にも都ありとは」の「源平盛衰記」からとった二位尼の辞世の歌が刻まれています。いま一つ「二位尼辞世歌碑」も、市が同じときに建てたもので、「長門本平家物語」により、「今ぞ知る身もすそ川の御なかれ波の下にもみやこありとは」となっています。

🌐 Q53 源平壇之浦の合戦で入水された安徳天皇のご遺体は伊崎に住む漁業の一族によって引き上げられたといわれています。そのため安徳天皇を弔う先帝祭では、この一族の末裔の皆さんが先導するしきたりとなっています。さて何家でしょうか。

- ①水野家 ②大司家 ③鈴木家 ④田中家 ⑤中島家

答え ⑤中島家

解説 源平壇之浦合戦の翌日、伊崎に住む中島組という漁業団が丸太船4隻に分乗し、四ひろ網を張って小門海峡で漁をしていた時、網にかかったのが安徳天皇のご遺体でした。組のものは恐れ多いと直ちに小門の陸上にご遺体を移して安置しました。この場所を「御旅所」といいます。現在でも安徳天皇の御霊を弔う先帝祭の上臈道中・上臈参拝を先導するのは「中島家」です。

Q54 源平壇之浦合戦の際、御歳わずか8歳の第81代安徳天皇は二位尼に抱かれ、海峡に入水崩御されました。下関市阿弥陀寺町にある「安徳天皇阿弥陀寺陵」に関連する説明の中で、誤りはどれでしょうか。

- ①海戦の翌日、伊崎の中島組という漁師の一団が網を張って小門海峡で漁をしていた時、その網に安徳天皇の御遺体がかかり、これを

お揚げして伊崎の地に仮安置し、後に現在の御陵の地に葬ったという伝承が伝わっています。

- ②建久2年（1191）朝廷は長門国に勅して、御陵上に御影堂みえいどうを建立しました。
- ③この御陵は明治22年（1889）勅裁により、正式に安徳天皇の御陵と治定されました。
- ④全国には多くの安徳天皇御陵伝承地があり、なかでも下関市西市など6箇所は陵墓参考地となっています。
- ⑤この御陵は西日本では3箇所しかない天皇陵の一つです。

答え ④

解説 安徳天皇陵墓参考地は、全国で5箇所です。①鳥取市国府町、②下関市西市、③長崎県厳原町、④熊本県宇土市、⑤高知県越知町（「平家伝承地総覧」による）なお西日本の天皇陵は次の3箇所です。①第81代安徳天皇阿弥陀寺陵、②第75代崇徳天皇すどく白峯陵しらみねのみかさぎ（香川県坂出市）、③第47代淳仁天皇じゆんにん淡路陵あわじのみかさぎ（兵庫県三原郡）。「歴代天皇年号事典」などによる

Q55 下関市内には宮内庁管理の陵墓などが四箇所あります。以下のうち宮内庁が管理していないものは、どれでしょうか。

- ①安徳天皇阿弥陀寺陵
- ②安徳天皇西市陵墓参考地
- ③尊観法親王墓（専念寺）
- ④仲哀天皇御殯斂地ごひんれんち（長府・日頼寺にちらいじ）
- ⑤仲哀天皇御殯斂地（華山けさん）

答え ⑤仲哀天皇御殯斂地（華山）

解説 日本書紀などによれば、仲哀天皇2年（193）九州の熊襲が反乱し、天皇は追討のため西下、穴門あなどの豊浦津（現・長府）に着かれました。神功皇后を呼び寄せられて、豊浦宮を造営し、この地じんくうこうごうに7年滞しゆのみや在しゆのみやされます。（豊浦宮は現在の忌宮神社の場所と言われています。）

同8年(199)天皇は筑紫においてになり、香椎宮に居られました。仲哀天皇は、新羅を征するようという、神のお告げに従いませんでした。同9年(200)2月天皇は病気となり、香椎宮で急に崩御されました。神功皇后は天皇の喪を伏せ、ひそかに御遺骸を収め武内宿禰たけうちのみくねに任せて海路穴門にお移しします。そして豊浦宮で、燈火を焚かないで仮葬しました。「而して豊浦宮に殯して无火殯斂をす。(紀)」。この年は新羅出兵があって天皇の葬儀は行なわれませんでした。神功皇后は神のお告げに従い新羅へ出兵し、干戈を交えることなく征討します。凱旋された皇后は皇子みこ(応神天皇)を出産された後、豊浦宮に移られ天皇の御遺骸を収めて海路京みやこに向かわれました。(紀)この仮葬の場所は「仲哀天皇御殯斂地」(日頼寺)とされており、宮内庁が管理しています。仲哀天皇の御陵は大阪府藤井寺市にあります。華山の西之嶽山頂にある「仲哀天皇殯葬所ひんそうじょ」は、人が多く住む長府よりも安全な場所として設けられたのであろうとされています。

Q56 豊田町地吉地区じよしの豊田湖畔に樹木の繁る小山があります。ここは「安徳天皇西市御陵墓(参考地)」ですが、この小山の名前は何かでしょう。

- ①帝山 ②天皇山 ③丸尾山 ④地吉の森 ⑤堂ヶ嶽

答え ③丸尾山

解説 下関市壇之浦の合戦で敗れた平家、8歳の安徳天皇は二位尼に抱かれて関門海峡に入水されました。義経の捜索によって網にかかった遺骸を密かに豊田町地吉の丸尾山に埋葬したと伝えられています。昭和2年(1927)宮内省から「安徳天皇西市御陵墓(参考地)」と命名されました。

Q57 関門海峡は「武家政治の始まりと終り」という、我が国の歴史転換の大舞台にもなりました。武家政治の始まりのきっかけとなった源平壇之浦合戦は、平家物語に描かれています。以下の説明で平家物語と

異なるのは、どれでしょうか。

- ①平家方の阿波民部あわのみんぶは、源氏に寝返った。
- ②義経は平家方の水夫かこ・楫取かんどりを射倒すという、非常識な戦法をとった。
- ③平教経のりつねに追われた義経は、三丈ほど離れた味方の船に飛び移って逃げた。
- ④平教経は、源氏方の力持ち安芸太郎・次郎兄弟を左右の脇に挟みつけて、海へ飛び込んだ。
- ⑤合戦当初は平家が有利で、強弓で源氏を散々に射まくった。

答え

③

解説

平家物語は勇将平能登守教経たいらののどのかみのりつねの奮戦ぶりを伝えています。教経は義経を討とうと、船から船へと馳せ回って探します。義経の乗っている船に乗り合わせて「それ、いたぞ」と目をつけて飛びかかった。義経はこれは敵わぬと思ったのか長刀を左の脇にかいこむと、二丈（約6m）ほど離れていた味方の船にゆらりと飛び移った。これがいわゆる「義経の八艘飛び」といわれるもので、平家物語には本当に八艘飛んだとは書いていません。なお義経は、この戦いで三つの失敗をしたといわれています。①安徳天皇をお救いできなかった。②三種の神器しんぎのひとつ、草薙剣くさなぎのつるぎを探し出せなかった。③平家の水夫・楫取を倒すという卑怯な戦法で勝った。この後、義経の運命が良くなかったのは、この失敗が影響したのではないとも言われています。

Q 58 源平壇之浦合戦の後、源氏の土肥次郎實平どひじろうきねひらが総追捕使として、平家の残党の追捕と長門の国の鎮撫ちんぶにあたりました。さてこの土肥次郎實平が居城にした山はなんという山でしょうか。

- ①火の山 ②准胝山 ③覚苑寺山 ④唐櫃山 ⑤土肥山

答え

⑤土肥山どいやま

解説

平家滅亡後、土肥次郎實平が総追捕使として長府に入り、土肥山に居城し、平家の残党追捕と長門国の鎮撫に当たりました。土肥山は高さわずか40～50mにすぎない山でしたが、大規模な宅地造成がおこなわれて、今では公園化されフェンスに囲まれた一角に、高さ125cmの花崗岩による「土肥次郎實平之城趾」の碑が建てられているばかりです。この碑は、大正11年（1922）3月15日、桂弥一が山頂に建てたもので、宅地開発のため現在地に移されました。

Q 59 源平合戦で豊東一族から唯一源氏に味方して生き延び、美東郷青景地区（青景村）^{ふんとう あおかりむら}を領し鎌倉の御家人となって青景氏を名乗り、以後この地の地頭となって伝領した武将は誰でしょうか。

- ①藤原秀郷^{ひでさと} ②豊東秀将 ③豊西貞平 ④豊東秀通
⑤吉田秀定

答え

④豊東秀通

解説

菊川町域は寿永4年（1185年）壇之浦合戦までは平家方に加勢する武将ばかりで治められていました。この地域を豊東郡と言い、^{たわらのとうだ ふじわらひでさと} 依藤太藤原秀郷を祖とし、豊東秀章の嫡男「豊東郡司藤原秀盛」を最後として平家滅亡と共に豊東一族は滅び去りました。「秀章（秀将）の末子（10番目）、与一秀之」の嫡男秀通だ^んが義経に味方し、美東町青景郷の所領を得て地頭の恩賞を得ました。

Q 60 足利尊氏は、建武の中興の後、^{くすのきまさしげ} 楠正成らと戦って敗れ、いったん九州へ落ちのびました。そのとき下関に滞在し戦勝祈願をして反撃の体勢をととのえて出陣、勝利を得て室町幕府を開きました。その戦勝祈願した神社の一つに、足利尊氏がお礼の和歌を奉納しています。この^{ほうらくわ か} 法楽和歌が所蔵されている神社はどこでしょうか。

- ①亀山八幡宮 ②赤間神宮 ③忌宮神社 ④住吉神社
⑤乃木神社

答え

③忌宮神社

解説

建武の中興けんむ ちゆうこうの後、反旗きたはだけを翻した足利尊氏あきいは、北畠顕家きたはだけ・新田義貞にった よしただ・楠正成らと戦って敗れ、九州へ落ちのびます。大内氏や厚東氏など中国の有力な勢力を味方につけ、九州の菊池氏を破って九州一円の勢力を結集。下関長府で20日ばかり滞在し、住吉神社や忌宮神社に戦勝を祈願し、出発して勝利を得て、室町幕府を開きます。宿願を果たした尊氏は、建武4年（1337）戦勝を祈願した長府の忌宮神社にお礼の和歌2首を奉納しています。現在、忌宮神社に所蔵されている「紙本墨書豊浦宮法楽和歌」は、この尊氏自筆しほん ぼくしょ とよらのみや ほうらく わ かの法楽和歌のほか、弟足利直義あしかが たかつね、一族の足利高経あしかが たかつね、尊氏の子・足利直冬あしかが ただふゆが奉納したものを加えて1巻とし、国の重要文化財に指定されています。

Q61 室町時代の後半、中国や朝鮮との交易のため、現在の山口市から豊北町の北浦まで街道が整備されましたが、その街道は何と呼ばれていましたでしょうか。

- ①深川街道 ②肥中街道ひじゅう ③長府街道 ④厚狭街道あさ
⑤赤間関街道あかまがせき

答え

②肥中街道

解説

文明年代（1480年頃）現在の豊田町は大内氏の勢力圏にあり、豊田氏は大内氏に服属していました。大内氏の配下右田（朝倉）ひろあき ならわら弘詮が楢原山上の諏訪ヶ原きよかんに居館を構え、山口から北浦（現在の豊北町ひじゅうら）までの街道を整備しました。その後、この街道は何回もルートを変えながら、現在では国道435号となって私たちの重要な生活路線になっています。ちなみに、豊田地域は国土交通省（中国地方整備局）の「夢街道認定制度」に基づき、平成20年度（2008）に「豊田ほたる街道」として認定されました。これは、「みち」と「地域」の一体的な発展をめざし、地域資源を活かした地域づくりの取り組みを支援するものです。

Q62 大内義長は長府の長福寺（現在の功山寺）で自刃します。功山寺は名門大内氏が滅び、毛利氏の時代となった歴史転換の舞台にもなりました。関連する説明のうち、誤りはどれでしょうか。

- ①大内氏の祖は、百済の聖明王の子、琳聖太子と伝えられている。
- ②毛利軍に囲まれた大内義長は、弘治3年（1557）4月3日自刃した。
- ③功山寺墓地に義長の墓と伝えられる五輪塔がある。
- ④その両脇には杉民部、陶鶴寿丸と伝えられる墓がある。
- ⑤義長の兄大友宗麟は、弟の命と名器の茶入れ（上杉瓢箪）を交換したとも言われる。

答え

③

解説

功山寺墓地には大内義長の墓と伝えられている宝篋印塔があります。隅飾が直立し、古い時代のものです。大内氏は百済の聖明王（日本に仏教を伝えたとされる）の子、琳聖太子が祖と伝えられています。琳聖太子は聖徳太子の徳を慕って来日、帰化したといわれます。幽霊祭で有名な永福寺と、専念寺はいずれも琳聖太子創建と伝えられています。大内家31代義隆は天文20年（1551）一族の重臣陶晴賢に攻められ、長門湯本の大寧寺で自害。同寺に墓があります。陶は豊後から大内血族の大友晴英（宗麟の弟）を迎えて大内氏を継がせ、晴英は大内義長と改名します。

毛利元就は主君殺しの陶を討つという大義名分のもと、弘治元年（1555）厳島で陶の大軍を破り、陶晴賢は自刃します。墓は対岸廿日市の洞雲寺。元就は更に兵を進め、義長を攻めます。弘治3年（1557）3月、義長は重臣内藤隆世と共に勝山城に入ります。毛利は激しく攻め三の丸二の丸も占領。内藤隆世に切腹を迫り、義長を助命すると偽り降伏を勧め、ついに落城します。わずかな手勢を連れ大内義長は長福寺（功山寺）に入ります。毛利軍に囲まれ自刃を迫られた義長は、欺かれた事を知り同年4月3日、恨みをのんで切腹しました。

義長辞世

玉の緒よ 幾世経るとも繰り返せ 猶おだ巻に掛けて恨みん
さそふとも何か恨みん時来ては 嵐の外に花もこそ散れ

Q63 群雄割拠の戦国時代に於いて、長門・豊東郡地域^{ぶんとう}での戦は頭脳合戦とも言うべき方法で戦っていた。兵の少ない「えげ山城主は」（下大野村）一計を立て数倍の城光寺軍（下保木村）を敗走させたその戦術・作戦は何だったでしょうか。

- ①法螺貝・太鼓作戦 ②松明^{たいまつ}作戦 ③水鳥作戦
④案山子^{かかし}作戦 ⑤水攻め作戦

答え ②松明作戦

解説 菊川町に散在する城跡の中で下保木村に位置する所の城光寺山山頂に鎌倉末期から戦国時代にかけて築かれた城跡（城光寺城）があります。この城山の城主と敵対する小豪族が木屋川対岸、下大野谷井のえげ山（大野城）に城を構え、お互い隙あらばと睨み合っていました。えげ山のすぐ側を流れる木屋川の中州に松明を数百と立て敵を驚かし敗走させ勝利したとの伝承があります。美祢（厚城）にもこの作戦で敗れた話が残っており、当時としては良く使われる戦法だったようです。

◀近 世▶

Q64 豊臣秀吉が文禄の役の際に肥前名護屋から大阪に帰る途中、船が彦島近くにさしかかったとき、大きな暗礁に乗り上げてしまい、秀吉は危うく命を落とすところでした。供奉^{くぶ}していた毛利秀元の沈着な行動で秀吉を救出しましたが、この船の船頭は責任を感じ自決したといわれます。乗り上げた暗礁はこの船頭の名を取って名づけられました。なんとという名の暗礁でしょうか。